

兒こ雷らい也や
 豪こう傑けつ譚たん
 上かみのの卷まき
 篇へん八はち



^13
 3878
 55

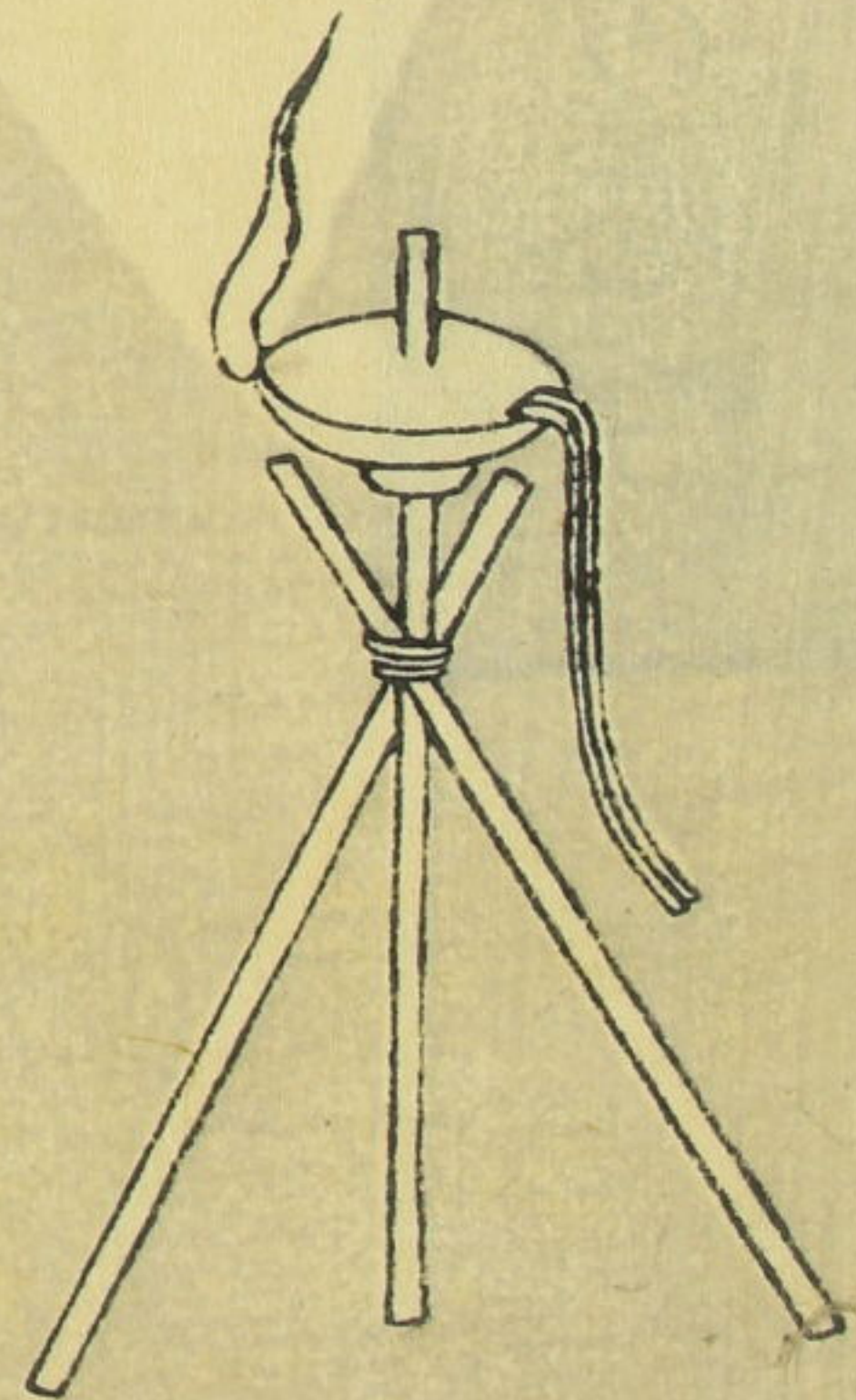


門へ13
 號 3878
 頁 55

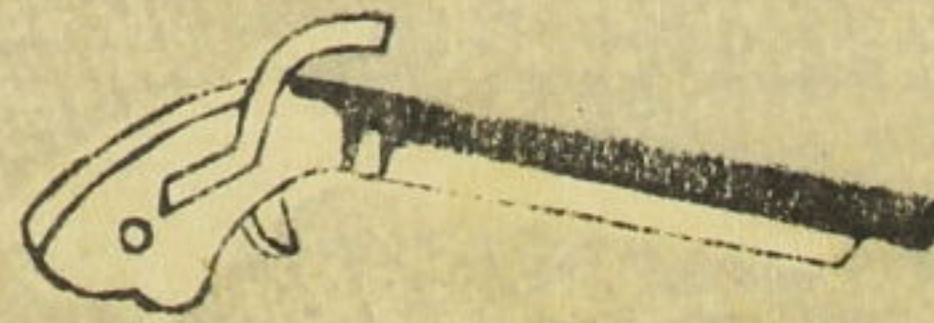
兒雷也
 豪傑譚

上卷

柳下亭作
 一壽多画



糸
 市
 棒



嗚呼江湖小裨官やい費心性質なる者おぼし彼殿の重宝の失亡此人が家の遺領
 争論或徳慕の亡命小胸中と胸界との合々傘肩小掛たる毛氈の赤心を見せ
 わひ情死事の浮氣なるより主君の身替父母の讐報報艱難辛苦の中
 経て出世不趣く安堵の御教書本地へ帰奉の賜文善惡邪正何ぞも彼でも
 不關係との東西あり左許の煩慮ある戯作者より遙く超て為他遇の友人
 ありて此兒雷也何編むく太尾あるや寛行が終身如何と問むくゆ名即
 ち合しての結乃尾形家の再興本領安堵の御教書を賜る場が大團圓悪賊
 牙利の石を脱し世を寛行と栄ある追條立をせむとありふ又他の書の宝は失
 亡仇討や心中やら混雜ならけむその満尾の案も着ねばはさえず知くと打笑ふ
 彼人呆れ体よと頼よ太ぬと有る實話と爰に記す

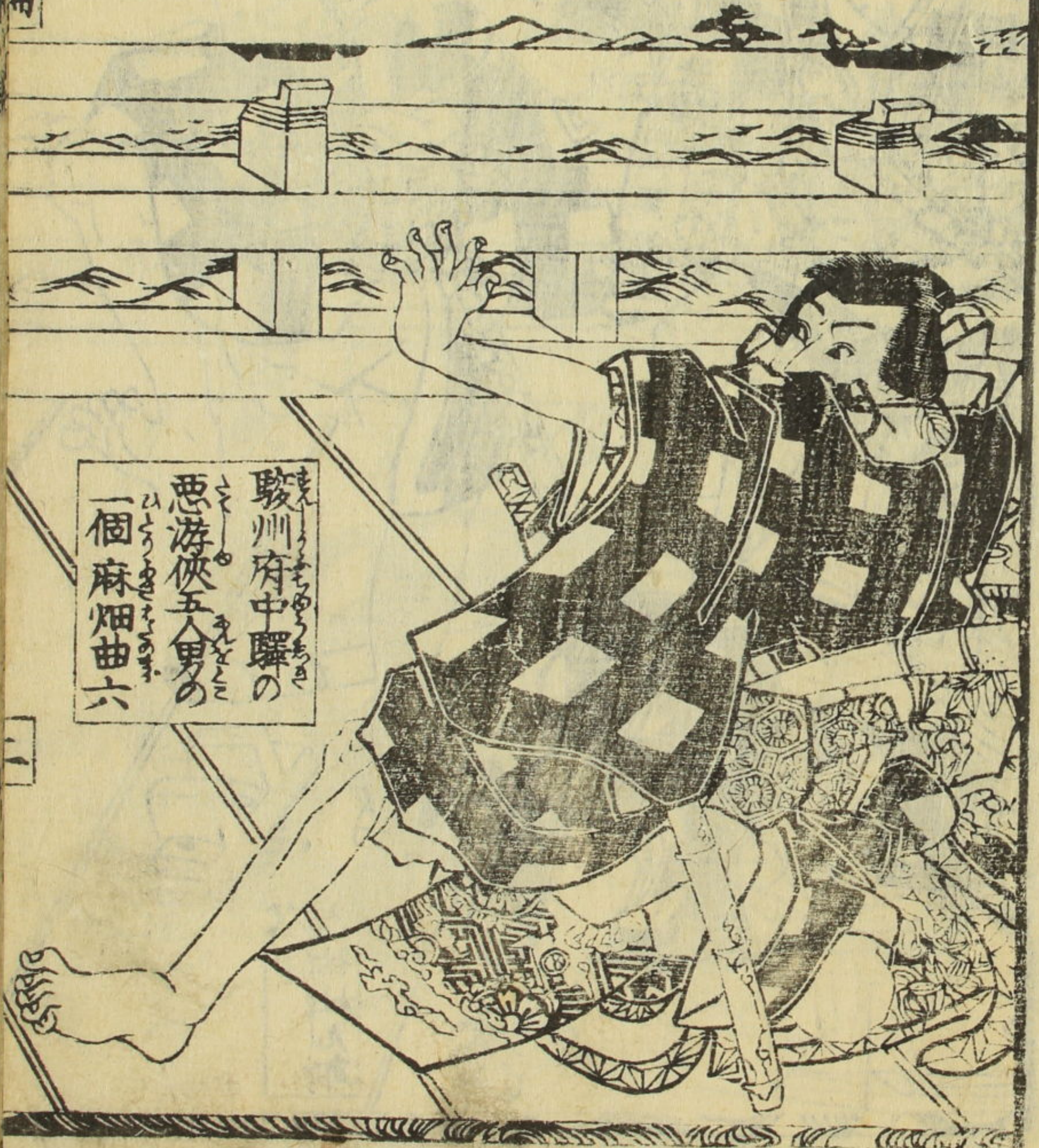
安政二年孟陽

柳下亭種員

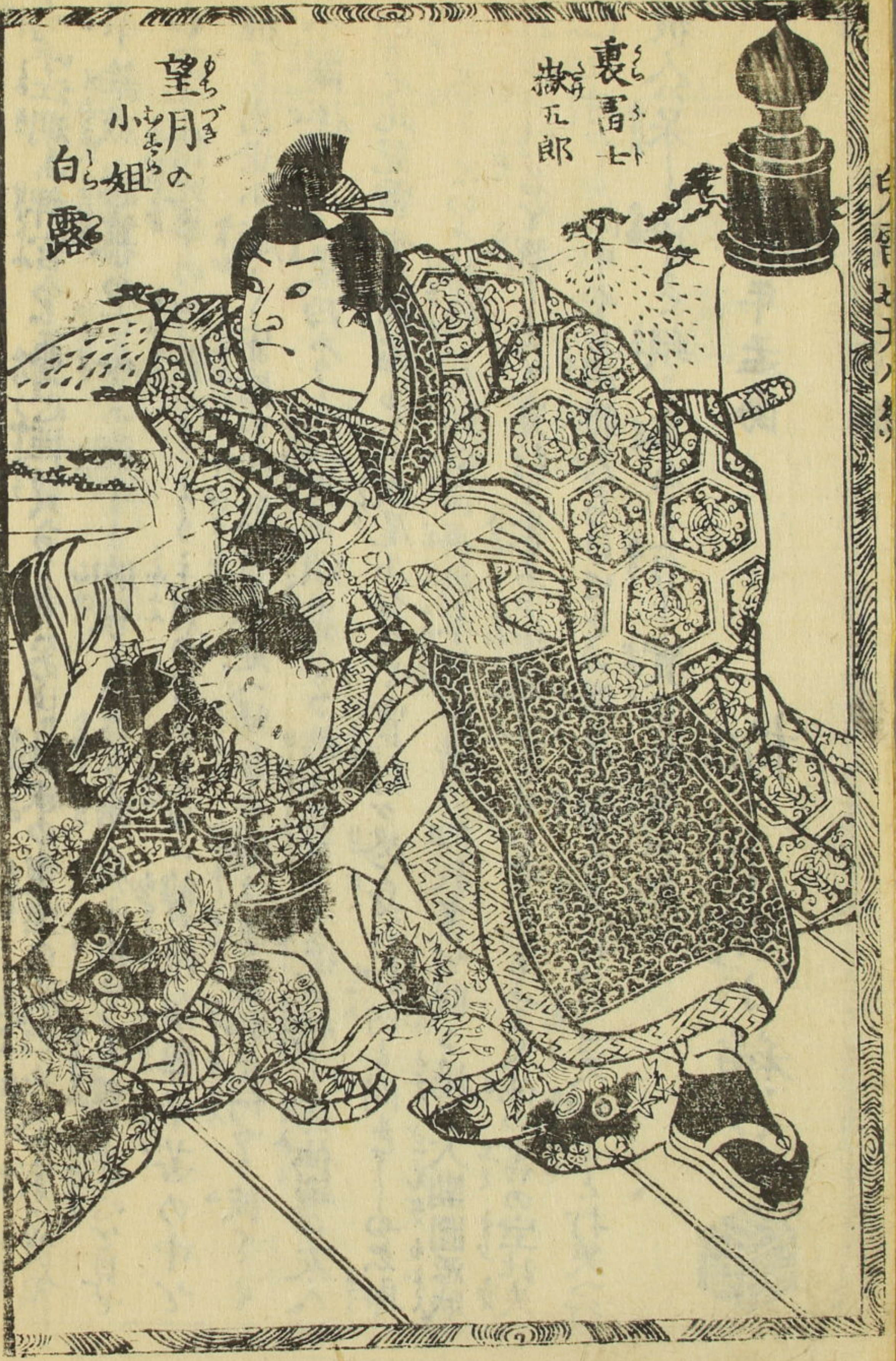
ヨシ智也七八編

白濁

鷓鴣集
万治元年刊行
高瀬梅盛撰
涼風也
つる
絆乃
心や
雪法



駿州府中驛の
悪游俠五人男の
一個麻畑曲六

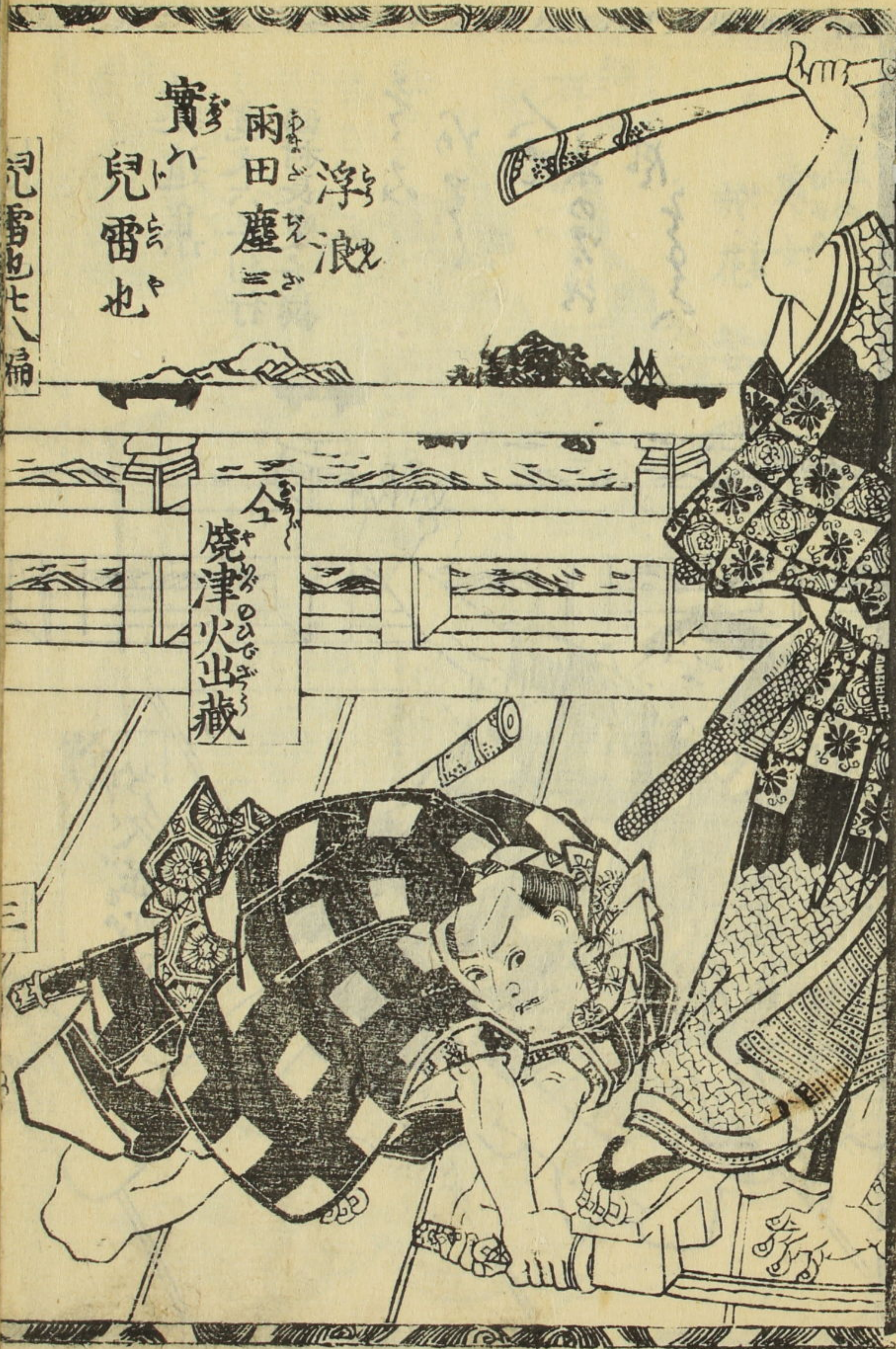


望月
小月
姐
白露
裏書
五郎

記雷也七八編

實多 兩田塵三 浪
兒雷也

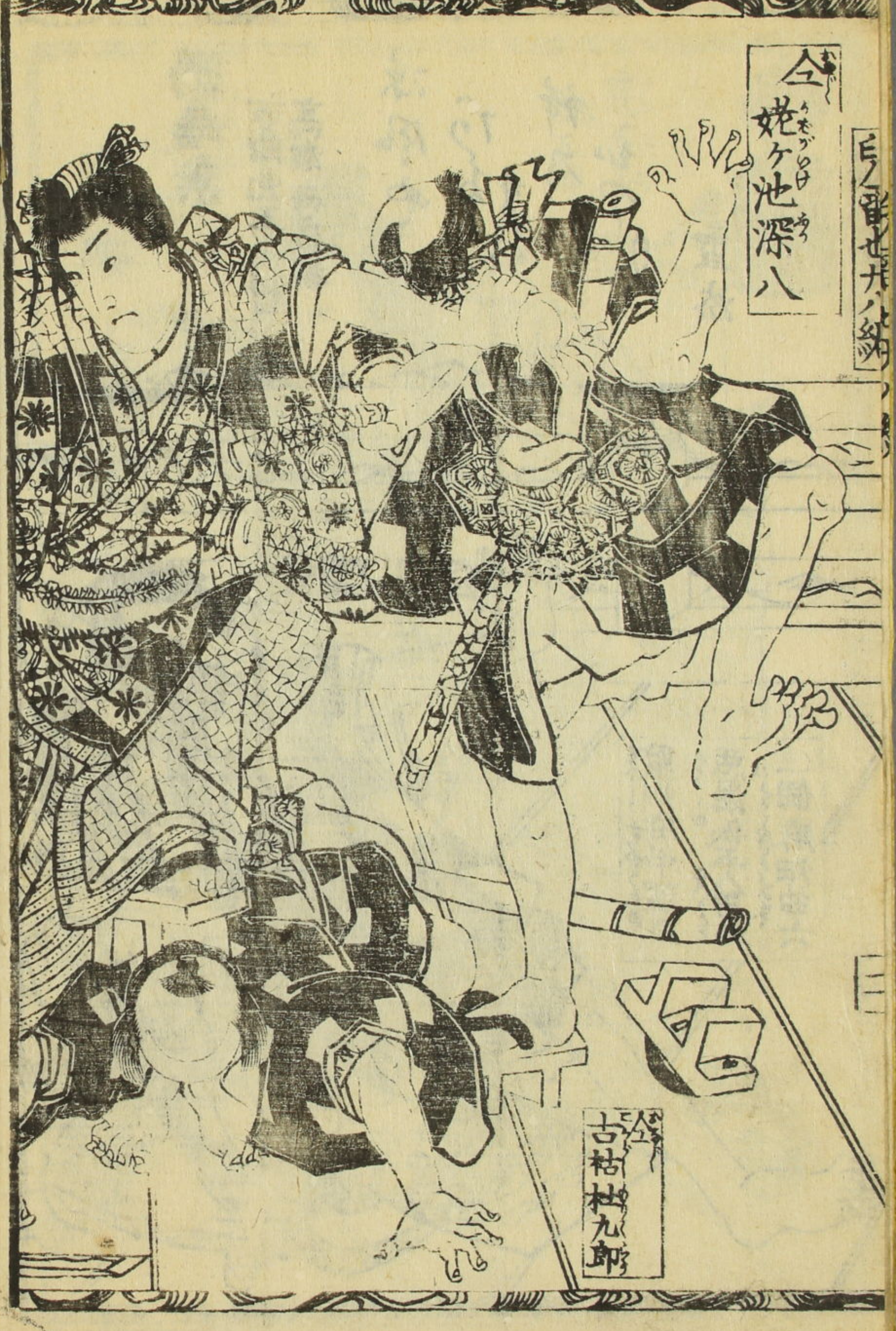
今 燒津火出藏



今 姥ヶ池深八

尾留也七八編

今 古樹九郎



白雲寺大納言

遠近集

寛文六年刊行
西村長愛子撰

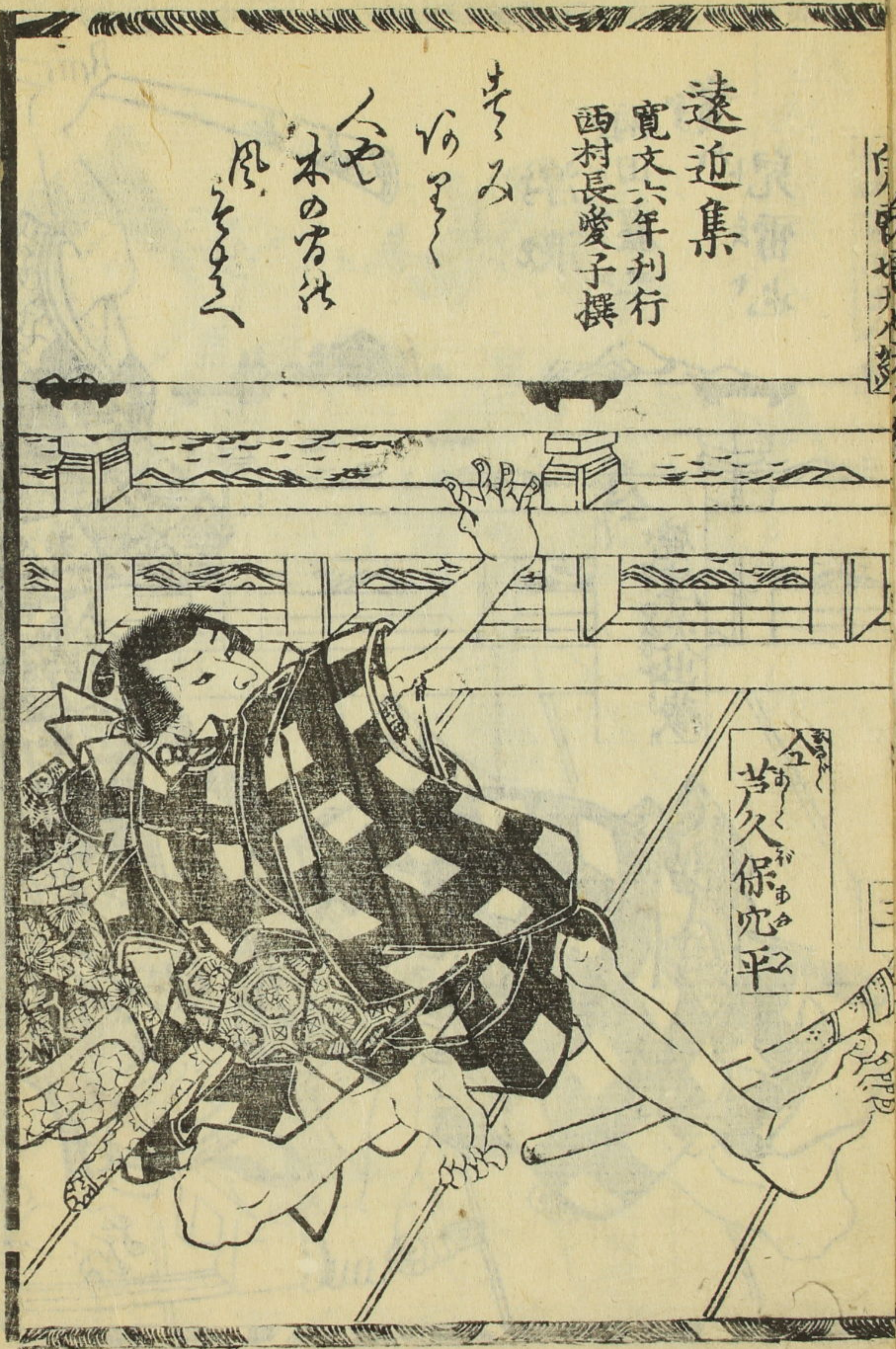
まきみ

のり

人毛

木の方化

風



全
芦久保丸平

刀屋

處

於花

鯉

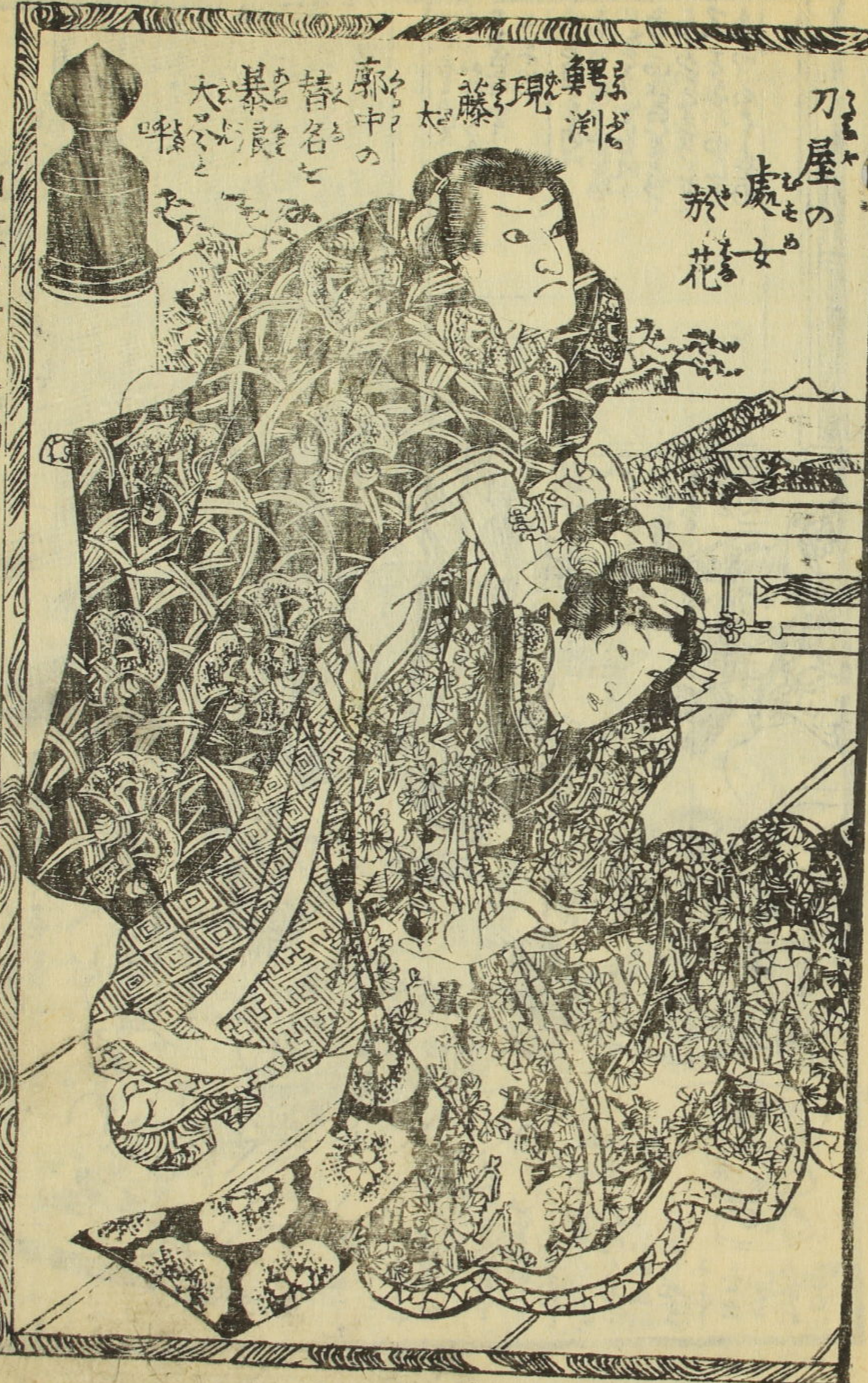
現

藤

廊中

替名

暴浪



兒雷也北八編



七番七ノ番

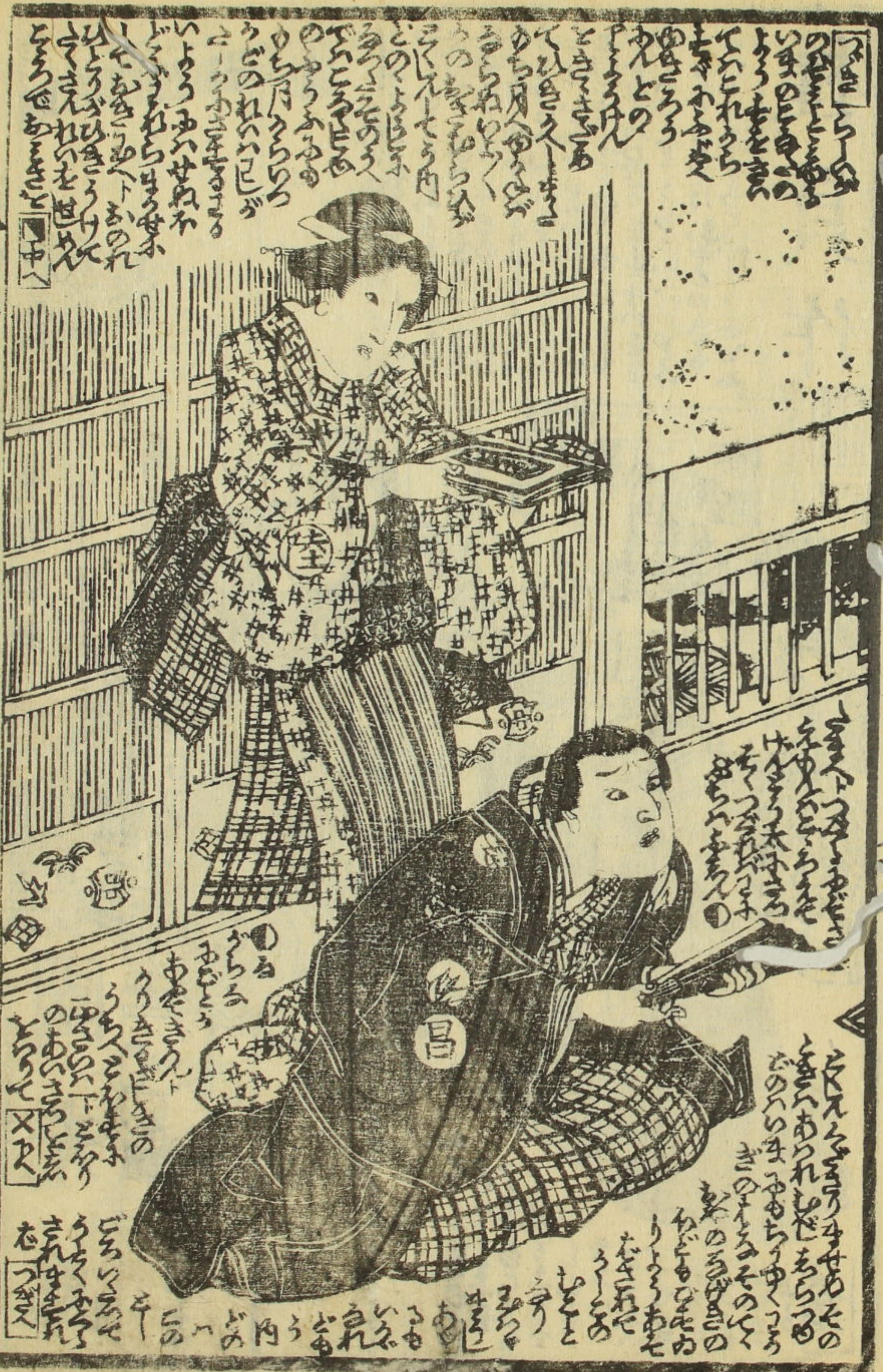
Handwritten text in cursive script, located below the illustration of the woman.



Handwritten text in cursive script, located below the illustration of the woman.

七番七ノ番





國光画

青洲書



此は陸奥の地味
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は

種員作

此は陸奥の地味
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は
 陸奥の地味は

一 兎雷也豪傑譚

四拾七篇

二 休草紙

拾五篇

一 凡俗淺間山獄

拾四篇

一 黄金水大盡盃

拾七篇

書肆 地本 問屋

芝神明前

和泉屋

市兵衛

銀座四丁目

同支店

